

「見た目が全てではない」

豊橋市立東部中三年 杉本美雪

私は、日系ブラジル人です。小学生だった頃はあまり気にしていませんでした。「ウチブラジルに行くの」と友達に伝えたとき「おゆきち」全然ブラジル人に見えんの」と言われました。それ以来私は疑問を抱きました。私のひいおじいちゃんやひいおばあちゃんとは、私に暮らしていた日本人でブラジルに来ておばあちゃんやおじいちゃんとして父と母。ブラジルで生まれた日本人。それが日系ブラジル人。それは納得できました。しかし私と弟は日本で生ま育ちました。なのに日系ブラジル人だということが納得いかなかった。その理由は差別です。小学校では保育園からの友達がいったり、困っていると助けられる子がいったり毎日が楽しかったです。でも中学生になつて仲の良い子たちと別のクラスになつてしまいました。でも他の学校の子が声をかけてくれました。その時はとてもうれしかったです。でもあまり楽しいとは感じませんでした。隣のクラスにいた私のいとこはハイフで

す。顔は日本人にはみえませんが、
もしいい子です。その子のクラスメイトたちは
見た目で彼女を差別しました。見た目で差別
するなんてバカバカしいと思いました。でも
私も差別されるのではないかと恐怖感を覚え
ました。そしてなんとが一年間を過ごしまし
た。2年生のクラスも不安でした。でもそこ
には親友や、これがよろしく！と言って
くれた子がいきました。私のいところも差別をしな
い親切な子と同じクラスになりました。私は
涙がでそうなくらいうれしかったです。私は
初めて友達にな。た子に、どうして私と友達
にな。てくれたの。ときいてみました。その
子は、「美雪は一緒にいて楽しいから」と言っ
てくれました。彼女たちは、私が日系ブラジ
ル人なんだと言。ても彼女たちは全然気にす
ることなく仲良くしてくれました。今まで私
は差別されるのが嫌だから外国の人たちを避
けていました。でも今思うと私はとても最低
なことをしてしまいました。友達にそれを気づか

されたような気がします。文化や肌の色関係なくみんな人間に変わりないのだ。だから差別は心のない人がすることだと私は思います。これからは国籍などを気にしないでみんなと仲良くしたいです。そのためにも差別をしていく人がいたと止めようように声をかけたり困っている外国人の人がいたら助けたりあげたりしたいです。私は差別さ水のような経験があったからこそ外国の人たちの気持ちが変わります。差別を全部無くするのはできないかもしれないけど少しでも役に立てたらと思います。将来は通訳者になってみんなの役に立ちたいです。私は日系ブラジル人というのがスゴク嫌いでした。でも今は日系ブラジル人でスゴク良かったなと思います。これからも誇りと親への感謝の気持ちを持って生きていきたいと思います。まず。できれば世界中を旅して色々な文化を知ってそれをまた他の国に伝えて仲を深めていけたらいいなと思います。そのためにも色々な文化を今から知っていいこうと思います。

そして差別がなくなるように色々な活動を考
えたと思います。私がブラジルにいたとき
ブラジルの子たちに日本語の読み書きを教え
ていた日本人の先生がいました。その先生は
読み書きだけではなく太鼓も教えていました。
私は、あの先生をスゴイなと思いました。理
由は、日本人、ブラジル人みんなを一つにフ
なげたからです。私は、その先生をとっても尊
敬していました。先生のようになるためにも
これからも、も、と一生懸命勉強をしていき
たいです。